



春 江 だ よ り

3月号

令和8年2月27日
江戸川区立春江小学校

希望の春に向かって

校長 小林 麻子

朝校門に立っていますと、子供たちの様々な挨拶の姿に出会います。元気よく声を出す子、少し照れながらも目を合わせてくれる子、そして丁寧に辞儀をしてくれる子。その一つ一つに私は心が温かくなります。

日本には古くからお辞儀の文化があります。ただ形として頭を下げるのではなく、そこには「相手を大切に思う心」や「ありがとう」「よろしく願います」という気持ちが込められています。言葉とともに辞儀を添えることで、その思いはより深く、より確かに相手に伝わります。お辞儀をするとき、人は自然と一度立ち止まります。その一瞬が心を整え、相手に向き合う時間になります。慌ただしい毎日の中でも、その小さな間があることで、学校全体の雰囲気は穏やかで温かなものになります

先日情報番組の中で、日本に旅行に来た外国人が様々な場面で「お辞儀」に遭遇し、お辞儀の素晴らしさを感じているという紹介がありました。例えば、横断歩道を渡る歩行者が止まってくれた車に向かって、丁寧に頭を下げていた。お菓子をいただいたときに「ありがとうございます。」と同時に頭を下げていた。こうした日本のお辞儀という所作が国境を越えて広がり、世界の人々の心を動かしているという内容でした。

毎朝挨拶ができる児童は、全員ではありません。しかしながら、年々挨拶の声が増えており、また、お辞儀をして挨拶している児童も増えています。お辞儀をして顔をお互いあげた時に、にこっと笑顔で目が合う瞬間は、心がほっと温かくなります。子供たちにもそう思ってもらいたい、1日のスタートを気持ちよく切ってもらいたいという思いで挨拶をしています。

今週5年生は、ウインタースクールで新潟県魚沼市に行ってきました。スキー教室後、インストラクターの方から、子供たちの挨拶が素晴らしかったとお話いただきました。リフトに乗る前に「願います」、終わった後に「ありがとうございました」と補助員の方に挨拶をしていたそうです。日頃学校で大切にしていることが、学校外のところでもできていることに大変喜びを感じました。

挨拶は人と人をつなぐ第一歩です。本校ではこれからも形だけではなく、心のこもった挨拶を大切にしていきたいと考えています。挨拶の習慣を学校や家庭、地域全体で大切にする文化を育むことで、子供たちは社会の一員として成長できます。ご家庭におかれましても、ぜひお子さんとともに挨拶について話題にいただければ幸いです。

今年度も残り1か月となりました。1年間で子供たちは学習面、生活面で様々な成長が見られました。これから子供たち一人一人が1年間を振り返り、進級、進学に向けて夢や希望をもてるようにしていきたいと思えます。そしてその実現に向けて自分はどうしていくかを考えて目標を立て、チャレンジし努力してほしいと思えます。学校は、1年間の教育活動を振り返り、子供たちの笑顔のためにより良い教育活動を行えるよう、次年度に向けて計画を立てています。子供たちのやる気を引き出し、良い学びにつないでいけるよう、教職員一同努力してまいります。

6年生は卒業に向かって一つ一つの行事に心を合わせて取り組み、小学校の集大成を迎えようとしています。1年生から5年生の児童は、自分の成長を振り返り、進級への期待を膨らませています。全校児童の心を一つに、希望の春に向かって準備をしっかりと行っていきます。

今年度も保護者、地域の皆様の多大なるご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。